

全国学力・学習状況調査の結果及び 「確かな学力」の育成に向けた取組

総合支援課小中学校班

研究の概要

平成 25 年度の全国学力・学習状況調査における、小学校国語 A の結果をきっかけに、本県の学力に対する注目が一気に高まった。本県の最も大きな課題は「調査問題や調査結果を活用する意識が低い」ことであった。学習指導要領の具現である調査問題や、調査結果を有効に活用し、学習指導要領を大切にしたい指導をしていくことが本県の課題となった。

調査問題を活用する意識を高めるための取組の一つが、4月の調査終了後に各学校で採点を行う早期対応である。8月末の文部科学省からの結果公表を待たずに、教員が「採点する」ことにより、調査問題を理解・活用したり、本調査や学習指導要領を大切にしたい指導する意識を高めたりすることにつながった。

また、教員の意識向上及び児童生徒の確かな学力の育成を目的として、「チア・アップコンテンツ」「チア・アップシート」を作成した。概要は次のとおりである。

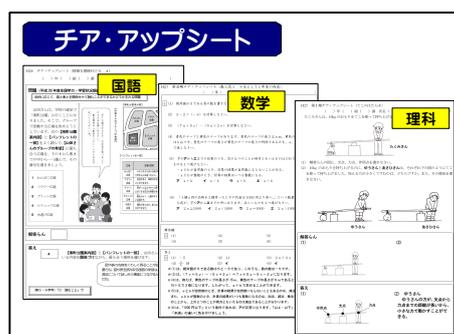
◇「チア・アップコンテンツ」の作成

調査問題及び早期対応による正答率を分析し、現状と対策をまとめた動画コンテンツを国語、算数・数学、総合（質問紙調査）で作成した。7月にセンターホームページに掲載、市町教育委員会にDVDを配布した。夏季休業中の校内研修での活用を期待した。



◇「チア・アップシート」の作成

小・中学校の国語、算数・数学、理科において、過去の調査結果から課題が見られる項目について、過去問題や類似問題に解答例や解説を加えて10分程度で取り組めるように作成した。3月にセンターホームページに掲載し、活用を呼びかけた。



これらチア・アップシリーズの取組により、平成 28 年度、調査問題や調査結果を活用していると学校質問紙で答える小・中学校の割合が 95% を超えたことから、教員の意識をより高めたといえる。また、小学校の国語 AB、算数 AB、中学校の国語 AB、数学 AB の全てで全国の平均正答率を上回っていたことから、児童生徒の確かな学力の育成という目標の達成にもつながったと言える。

平成 25 年度調査において、小学校 6 年生では 4 科目全てで全国の平均正答率を下回った子どもが、今回中学校 3 年生になり、4 科目全てで全国の平均正答率を上回る成績を収めたことは、各取組の成果のあらわれであると言える。